

## (1) 現行ビジョンに単独世帯の増加や世帯の多様化に応じた住まい・まちづくりのあり方を加味すべきではないか

### 多様化

- ・ 単独世帯が大阪府全体だけでなく、どこでどう増えているという地理情報と融合させた分析が必要。
- ・ 単独世帯の増加、世帯の多様化について、まちづくりを考えていくことが必要。
- ・ 多文化化を実際どう支えていくかというような論点になると思うが、きちんとした現状の把握や分析が行われておらず、何をすべきかが明解になっていないのではないか。
- ・ 世帯の多様化に対してどういう住宅のオルタナティブを供給していくのかということが、包括的なテーマとして上げられるのではないか。
- ・ 経済的な貧困と住宅政策、子供の貧困の問題も含めて指摘をいただいた。論点としては、安全の問題、あるいは世帯、人口問題と関連させて扱う可能性もある。
- ・ 貧困や、ひとり親、高齢化などの問題など厳しい状況の中で必死に生きている部分に対してのまちづくりの関係が気になる。
- ・ 都市活動の基盤となるような社会・生活を支える部分の仕事をしている在留外国人の方々や、そのお子さんたちの教育環境などは相当厳しい状況であり、その方々が暮らしやすい都市はどういう機能を備える必要があるかについても、具体的な検討が必要では。
- ・ 今年は住宅・土地統計調査が実施されるが、府内の住宅の所有形態に加え、入居者の所得状況などが出てくるので、考える前提として基本データ等も含めていただきたい。

## 都市の縮小

- ・ 縮小していく社会は、とても重要な社会的な背景だと考えている。
- ・ 全体に通じるが、人口減少がわかっている中で、どのように縮小していくのかを、どう捉えるかということを考えなければいけないのではないか。
- ・ 縮小というものを機会に、縮小をどう前向きに捉えて施策を打っていくのかということを考えることが、持続可能なまちづくりにつながっていくと思う。

## 人口移動

- ・ 移動について、大都市の特徴的な流入・流出が見られるようなデータがあれば、大阪府全体が抱える問題を相対化して捉えることができるのではないか。
- ・ 人口の動態分析に基づいて戦略を考えることや、それを課題にすべきではないかという御意見。
- ・ 都市部への人口集中、シュリンクに伴う都市部の人口増が、部分的に起こっているということを頭に入れて置きたい。
- ・ 人口の増減や世帯の変化というものを大阪府として一括として捉えるだけではなく、地域ごとのデータの収集や、地域特性がわかる統計調査、データ分析をするという提案に賛同。
- ・ 高齢化率もどこが高いのかということが問題であり、地理的な特性を踏まえて議論することとしている。
- ・ 住まいを選んでいるのではなく、選ばされていると強く感じている。供給する側の住宅の市場側の動きを知りたい。

## (2) 住まい・まちづくりと「健康」との関係性（エビデンス）を整理したうえで、住宅まちづくり政策に「健康」を位置づけるべきではないか

### まちづくりと健康

- ・ まちづくりの目標は健康とあるが、健康づくりとまちづくりはほぼ重なっているというふうに考えたほうが自然である。
- ・ 健康は必ずしも病気でない状態ではなく、安心や安全、生きがいという点から健康というのを捉えて考えたほうが良い。
- ・ 貧困、高齢化、多様性については、既に健康づくりにおいて議論となっている。
- ・ 健康は今までターゲットとしてなかったことに加えて、まちづくりは道路や公園も入るので、どう分けしていくのかなかなか難しい問題という感想を持っている。
- ・ どんなコミュニティで健康が悪化して、どうまちを変えれば健康がよくなるのかについても、他の部局と連携した分析が必要。

### 住まいと健康

- ・ 断熱改修が必要な住宅について、建造年や種類などをベースに、どういう住宅が多く、それぞれの断熱性能がどれくらいであるのかという現状を把握した上で、健康増進のための熱環境向上の断熱改修政策をするには、どこに重点を置くべきかというようなことを整理されてはどうか。
- ・ 例えば住宅の修理、築年数だけでなく、居住者特性として所得、年齢、家族構成も含めて分析し、どういった人が住まうところを重点的に支援するかというような施策に繋がれば良いと思う。

### エビデンス

- ・ 現時点で日本における住まい・まちづくりと健康の関係性についてのエビデンスは多くない
- ・ 厳密にいろいろな状況をエビデンスとして見るには、地域ごとのデータではなく個のデータが必要。

### (3) 住宅まちづくり政策の検討にあたって、どのように現状の把握や統計調査のデータ分析を進めるべきか

- ・ 大阪府の中でも地域特性がある。総量だけでなく、ある程度の分類や地域特性がわかるようにデータ分析をしていただきたい。
- ・ テーマに関わらずできる限り地図でデータを示していただきたい。

### (4) その他、今後の住宅まちづくり政策に関して、特に検討・議論すべきものはあるか

#### ① 住宅ストックの活用について（空き家、マンションストックなど）

##### 空き家

- ・ 今後の住宅供給の中で空き家について意識する必要があるのでは。
- ・ 今、空き家がかなり多いので、それをまずどうするかを考えてはどうか。

##### マンション

- ・ マンションは民間の区分所有住宅の管理、賃貸住宅は維持管理と民間の賃貸住宅ストックの問題ということで、大都市で多い集合住宅のストックの維持管理問題という一つのテーマにして議論してはどうか。
- ・ 既存マンションの耐震対応だけでなく、再生をどうやって円滑に進めるかというのは大きな論点として議論したほうがいい。

## ②SDG s 観点から見た住宅政策

- ・ 貧困、健康、環境、住む、多様性は全てSDG sの項目であるため、SDG sの観点から議論を進めたい。
- ・ 持続可能性、建てかえの問題、人口減少と高齢化、老朽化マンション、建物の老朽化がテーマに入ってくるが、1の論点の中に組めるか、別立てにするか議論していきたい。また、SDG sの中にいれるか、それを打ち立てるかは今はちょっとわからない。

## ③災害時における住宅支援

### 災害への備え

- ・ 重点密集市街地についても、被害をみたうえで、次の地震に備えようかということ、きちっと整理をする必要があると思う。
- ・ 持ち家の耐震改修は様々な補助制度があるが、賃貸にはあまり制度がなく、耐震化をどう進めていくのかという課題もある。

### 事後対応

- ・ 阪神・淡路大地震の対応も踏まえ、応急危険度判定等や住宅支援を再度きっちりと見直してみてもどうか。